



音楽と研究で知的障がい者の QOL 向上を支援する NPO 法人を設立！

～知的障がい者に対する 15 年に及ぶ和太鼓演奏教育の実績

情報・科学的アプローチにより演奏能力の定量化と指導方法の改善を目指す～

【概要】

我が国には知的障がい者が 50 万人～300 万人程いると言われており、近年、彼らのクオリティ・オブ・ライフ（QoL、生活の質）を高めるためスポーツや芸術活動などに参加したいという希望者が増加している。しかし、それらの受け入れ態勢は十分とは言えず、音楽活動に関しては単発的なイベントや音楽レクリエーションに参加する機会があっても継続的な演奏活動、トレーニングが出来る場はごくわずかである。また音楽の療法的効用に関する学術研究はまだ進んでいるとは言えない状況である。

そこで、25 年にわたる知的障がい者の音楽指導経験にもとづき、任意団体であるアゴラ音楽クラブを 10 年に渡り運営し、ダウン症の知的障がい者を主な対象者として、和太鼓演奏指導や演奏会開催を行ってきた（図 1， 2）水野恵理子博士は、柴田智広博士（奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授）の協力を得て、音楽活動が障がい者にもたらす効果などについて学術研究を行うことを活動目的に加え、2011 年 12 月 8 日に NPO 法人アゴラ音楽クラブを設立した。また、柴田准教授らは Microsoft の Kinect™を利用した音楽演奏記録装置の開発を行ってきた（図 3～5）。

【本研究内容についてコメント出来る方】

・佐久間春夫（医学博士）

立命館大学 スポーツ健康科学部教授

・土居悟（医学博士）

大阪府立病院機構大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 小児科主任部長

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

NPO 法人アゴラ音楽クラブ 理事長 水野恵理子

TEL・FAX 0742-45-3027

携帯 090-3941-6892

E-mail eriko@agora-mc.com

【設立趣旨】

近年、身体・精神あるいは知的に障害を持つ者の生活の質（QOL）を高めるためスポーツや芸術活動などに参加したいという希望者が増加している。しかし、それらの受け入れ態勢は十分とは言えず、音楽活動に関しては単発的なイベントや音楽レクリエーションに参加する機会があっても継続的な演奏活動、トレーニングが出来る場はごくわずかである。本法人は、身体・精神あるいは知的に障害を持つ者に対して音楽を主とした指導及び演奏活動を行い、それによって障がい者の余暇活動さらには社会参加の機会を提供する。同時に教材の開発、指導者の育成、ワークショップなど音楽療法を学ぶ者・支援者・保護者などを対象とした活動を行う。

また音楽の療法的効用に関するわが国の学術研究はまだ進んでいるとは言えない状況である。本法人ではこれらの音楽活動が障害改善にもたらす効果その他について研究機関と連携して学術研究を行う。これらの活動・研究の公益性、また対社会的認知及び信用を高める必要性により特定非営利活動法人を設立し、障害者福祉に寄与することを目的とする。

【これまでの活動実績】

任意団体アゴラ音楽クラブは2002年10月の結成以来、奈良県内の小・中学校、特別支援学校での行事に出演（和太鼓チーム、ピアノ、マリimba、合奏など）して知的障がい者の音楽活動の成果を直接見てもらうことで、生徒や保護者、先生方の障がい者に対する認識を変革するきっかけを作ってきた。2004年、2005年には自治体主催の青少年の集い等に出演、一般の参加者とともにイベントを盛り上げ、交流を図った。また2006年全国障害者問題研究会第40回全国大会での演奏は全国からの参加者に感動を与えると同時にメンバーにとって自信を得る結果となった。その他、県内各地の障がい者授産施設での演奏・交流会は障がい児・者を持つ保護者に対し、子どもたちの生きがいにつながる余暇活動の一つの可能性を提示してきた。

さらに近隣の自治会主催のイベント（盆踊り、ふれあいまつりなど）では和太鼓演奏を通して地域の人々に認知され、称賛を受けることで自己肯定感を向上させ、さらなる学習や積極的な社会参加を促し、就労の能力をつける力にもなっている。

また代表の水野恵理子は2001、2004年にドイツに渡り音楽療法関係者にアゴラ音楽クラブの活動を紹介、2010年には韓国、中国、台湾にて知的障がい者の音楽活動の効果について発表した。



富雄第3地区社会福祉協議会・子供会共催「和太鼓鑑賞会」

2005. 11. 13



知的障がい者授産施設オープンスペース AYUMI にて交流会

2007. 06. 23

【今後の展開】

音楽の指導に関しては、プログラムの選択期間にゆとりをもたせ、多くの楽器に触れる機会を作ってマッチングを図りたい。そして短期目標より長期目標に重点をおいて、楽しみながら出来る限り長く続けられるようにし、障がい者にとって生活に密着した音楽活動をめざす。

和太鼓は演奏活動と共にワークショップの機会を増やしより多くの障がい者に体験してもらいたい。そのためある程度のマニュアル化を図り、アゴラ音楽クラブ独自の教材を作成する予定である。

また、アシスタントとして練習に参加するボランティアには継続的な参加を基本とし、定期的に研修会も企画して、より効果的な指導法を示していきたい。

また、本法人では音楽活動が障害改善にもたらす効果その他について理事長の水野博士を始めとする専門家や、奈良先端大などの情報・科学の研究機関と連携して学術研究を行い、その成果を障がい者の活動にフィードバックしてゆきます。

具体的にはまず、本法人に参加している障害者の演奏練習中の、身体運動情報や音情報を長期的に記録していきます。得られたデータを解析することにより、個人個人の演奏能力が発達していく様子を定量的に把握することができるだけでなく、本法人という小さな社会における、集団の相互作用の科学的理解も進むことが期待できます。さらに、これらの研究成果に基づいて、より良い音楽療法を開発することも可能になると期待されます。



図3 Kinect™による和太鼓演奏記録の様子

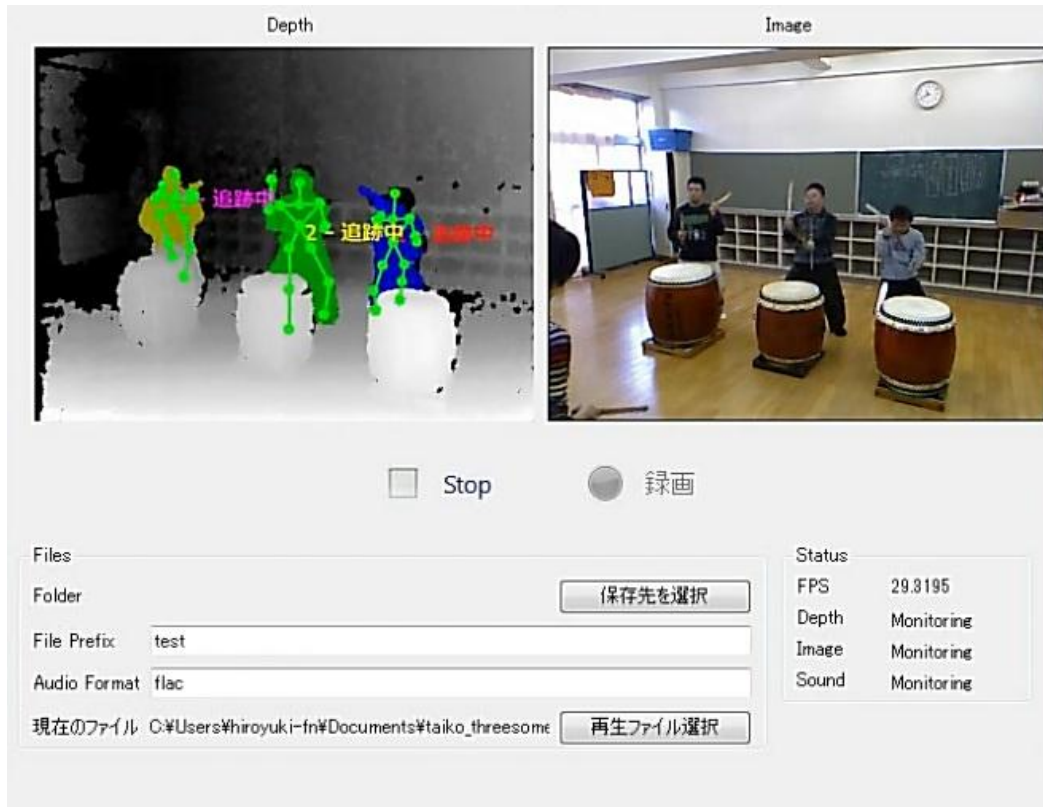


図4 Kinect™によって得られた深度画像の解析

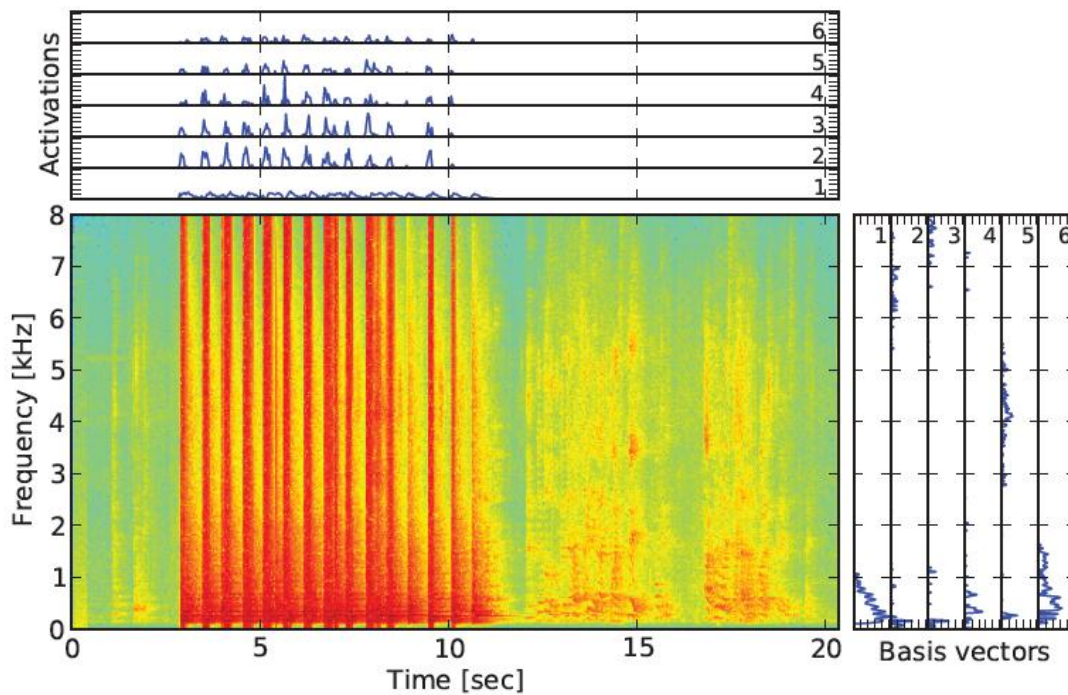


図5 Kinect™によって得られた音データの解析